

教員活動状況報告書

提出日：令和 4年 3月 2日
 所 属： 獣医 学部 獣医学科
 氏 名： 坂上元栄 職位： 教授
 役 職： 基礎獣医学系 系主任
 附置生物科学総合研究所副所長

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

学部及び大学院において主に下表の科目について担当した。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
① 獣医組織学	獣医学科	必須	1	187名
② 獣医発生学	獣医学科	必須	2	162名
③ 動物機能解剖学	動物応用科学科	必須	1	151名
④ 動物解剖・生理学実習	動物応用科学科	必須	2	141名
⑤ 動物発生学	動物応用科学科	選択	2	75名
⑥ 卒業論文	動物応用科学科	必須	6	1名
⑦ 獣医組織学実習	獣医学科	必須	3	169名
⑧ 獣医組織・発生学特論	獣医学専攻	選択	1	1名

学部教育では、基礎獣医学系に所属する解剖学・組織学・発生学を担当する教員として、主に表に記載科目のコーディネートと教育を実施した。これらの科目については、総じて獣医学科と動物応用科学科のカリキュラムツリーに示されている次の専門科目の学修に必須である基礎的な知識、即ち肉眼及び顕微解剖学的構造・名称を修得させ（表内①、③、④、⑦の科目）、さらにはそれらの構造が形成される発生過程と名称を修得させる（表内②、⑤の科目）責任を負う。表内⑥及び大学院教育表内⑧では、前述の知識を元に最新の研究論文を題材に論理的な思考と多角的な視点を持つことを養わせる責任を負う。

2. 教育の理念（育てたい学生像、あり方、信念）

「わかりやすい講義・実習が必ずしも勧善ではない」を教育理念とする。

科目①、②、③、④、⑤、⑦について：育てたい学生像としては初期学年の学生に生体の構造を理解して専門的な名称を記憶し適切に使用できるとともに、興味・疑問について単に質問するだけでなく自ら積極的に調査・学修をする能動的学生である。

科目⑥、⑧について：育てたい学生像としては、自分自身の伝えたい内容を明確かつ理論的に相手に伝えるプレゼンテーション及びコミュニケーション能力を持つ学生であり、専門的な研究論文や自分自身の卒業研究の内容について発表・質問・討論できる学生である。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

「動物応用科学科の専門科目教育」や「獣医学科のライセンス教育」にとって、担当する科目は用語や構造を覚えることが主たる目標となる。覚えて記憶を定着するためには、わかりやすい講義（プリント）を利用するのは良い方法であるとされているがこれらは学生にとって受動的なものである。記憶し定着するためには学生自身が調べる・考えるといった能動的な作業も効果的であると考えことから、このような能動的な作業が生じるような講義・実習を目標とする。能動的な作業が生じるような講義・実習にするためには、「わかりやすい講義・実習が必ずしも勧善ではない」。学生自身で分からないことを自覚（問題提起）させ、自ら調査・質問するといった方法を思考させる（問題解決の検討）ことで能動的な作業を身につけさせる。また、一学生の質問を全学生で共有することも、他の学生にとっては気づきを与える。このスキームを動かすために次の（ア）から（ウ）を行った。

（ア）講義プリントには獣医学科ライセンス教育及び動物応用科学科専門教育に必須なキーワードや項目を記載し、それに対して理解するのに必要十分な図表は記載した。講義内での言葉でこれらのキーワードや項目をつなげて説明した：読めばわかるといったいわゆる「わかりやすいプリント」では自分では考える機会がなくなってしまうが、キーワードと項目、必要最低限の説明の記載にすることで、「講義を聴く必要」があり、学生自身で教科書などを調べて「プリントを補う必要」が生じる。

（イ）講義内容は動画にして期末まで公開した。

（ウ）質問はすべて学理のディスカッションを利用して質問させた：昨年度学理のディスカッション機能で行ったが、One step 操作が少ない学理を利用することで、より利用しやすくした。一学生の質問を全員で共有することができるため、他の学生が疑問に思わないようなことを気づかせることができる。質問に対する回答は極力対話形式とし、教科書などの調査が不足している様であればそれを促すようにするとともに、講義では話さなかった部分を発展的に加えた。

（エ）FD プログラムに参加し、一部参考にした。

アクティブラーニングについての取組

質問の受付について学理を利用して対話形式で行った。自分から質問をするという能動的な行動を気軽にさせること、また、質問内容を共有することで他の学生が気づかなかった部分を気づかせることを目的とした。

ICT の教育への活用

- ・講義動画を作成し、オンデマンド形式でいつでも何回も視聴できるようにした。ただし、学習効果を高めるために、視聴期間は期末までとした。
- ・学理を使用し受講者全員と質問の共有を行った。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A）

- ・講義では，動画も同時に収録した。長期間にわたり複数回の視聴が可能となり，理解の助けとした。
- ・配布プリントはすべて PDF ファイルとすることで，今までの印刷物配布という形式ではできなかった，図のカラー化や添付図増量が可能となった。
- ・PDF ファイル A4 の 1 ページ内に 1 スライドのものと 2 スライドのものを用意して，写真や図が見やすく，メモがとりやすいスペースがあるようにした。

②学生の理解度の把握（B）

- ・講義科目では中間テストを実施することで，学生の理解度を把握した。

③学生の自学自習を促すための工夫（A）

- ・講義科目では中間テストを実施することで自習を促した。
- ・学理のディスカッション機能を使用することで気軽に質問する環境をつくり，自学自習につながるようにした。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A）

- ・対面講義・実習の実施が限られる中で，学理のディスカッション機能での対話形式での質問対応を行った。対面講義での質問でもできるだけ丁寧に対応した。

⑤双方向授業への工夫（A）

質問はすべて学理のディスカッション機能を利用して質問させることで，一学生の質問を全員で共有することができるため，他の学生が疑問に思わないようなことを気づかせることができる。質問に対する回答は極力対話形式とし，教科書などの調査が不足している様であればそれを促すようにするとともに，講義では話さなかった部分を発展的に加えた。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。(V 学科，M 学科の教員の方のみ記載してください。)

基礎獣医学系なので特に対策はこれらの講義では行わなかった。対策については，総合獣医学(担当しているが 3 コマしか担当していないため本報告書には未記載)で，担当科目「獣医組織学」「獣医発生学」内での分野別出題傾向を講義した。

5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

2019 年度及び 2020 年度授業評価では，講義資料で余裕のあるレイアウトにして欲し

いとあった。PDF ファイルで配布できるようになったので余裕のあるレイアウトにして図を増量し、1 ページ当たりのスライド数を複数用意して選択して使用できるようにした。

② ①の結果はどうでしたか。

講義資料についての悪いコメントは 2020 年度よりも少なくなった。

図が多くてわかりやすいというコメントがあった。

質問については、2020 年度と 2021 年度前期は Google チャットを使用し、2021 年度後期は学理のディスカッション機能を使用した。良かったとする意見もある一方で、(他学生にみられるので) 質問しづらいという意見もあった。おそらくは単純な質問をした時の他学生からの目を気にしているものと推測する。しかし、他学生の目を気にすることで自分の質問を練り直すという作業が加わり考える作業が増えることから、この質問を公開することについては良い方法であると考えている。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

能動的な作業をさせるための従来の形式も残しつつ、ある程度は評価(要望)に沿って、よりわかりやすい配付資料に一部変更する余地は有るかもしれない。学理のディスカッション機能は質問を受けるツールとしては良いものなので、今後も続ける。質問しづらいという学生のために、簡単な質問でも気軽に発言できるような環境(雰囲気作り)を心がける。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

試験問題をつくらせることを課題にする：毎回の課題として、講義内容を範囲として二問をつくらせ提出させる。講義の内容を復習し見渡すことでどこが大事かを自分で見極められる様になることを目指す。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

エビデンスはないが、全体的に勉強をするような雰囲気が感じられる。

7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況) (分量の目安：1~2 行 (40 字~80 字))

- ・ 2021/3/22 実施 FD 講演会「2021 年度授業に関する説明及び授業デザイン等の紹介」
- ・ 2021/7/8~21 実施 FD 活動「教員相互の授業参観」
- ・ 2021/12/14 実施 12/13 に実施された FD 研修(教育改善のための教員活動状況報告書を活用「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に向けて)の動画視聴と実施

8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)

すべてわかりやすい配付資料にするのではなく、適度なわかりやすさを有した配付資料を作成する。

オンデマンドで動画の視聴が講義後も可能なので、できるだけ講義での説明を充実させることで情報を補い、講義後の視聴による復習を促し定着させる。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

◎講義動画・資料等

学理 動物機能解剖学 課題, 同 授業評価アンケート, 同 提出された課題のまとめ, 同 講義動画

学理 動物発生学 課題, 同 授業評価アンケート, 同 提出された課題のまとめ, 同 講義動画

◎授業評価・授業に対するコメント

2021 年度授業評価・授業に対するコメント（担当講義・実習科目）

●FD 研修事後課題（ピアレビューによるブラッシュアップ）の実施

有・無

該当を○で囲む